# 図書館のグローバリゼーション

中央図書館長　北　爪　佐知子

**新しい図書館**

2012年12月、世耕弘成理事長（当時）から、「キャンパス建て替え構想」が提案され、図書館を中心として本館を全面的に建て替え、5年間で完成するとの計画が発表された。大規模な構想に、大学教職員は、大学が大きく変化する予感を感じ、強い期待を持って具体的な設計図が発表されるのを待っていた。2013年7月、解放的な広い空間を持つ図書館が中央を占める、新キャンパス構想の具体案が発表された。何故、図書館が中心を占めるのか、何故解放的な空間なのかという疑問を感じられた方も多くいたのではないだろうか？

従来の図書館は、本に埋もれて静かに一人で勉強するというイメージを思い浮かべるが、近年各大学で新設される図書館は、蔵書の保管という従来の機能に加えて、これまでの図書館の姿を一新するような新たな設備が設置されている。プレゼンテーションを行う賑やかな空間、グループ・ディスカッションを行うセミナー室、インターネットに接続できるパソコンの設置、画像編集機器の説明・指導コーナー、論文の書き方指導コーナーなどが設置されている。さらに、図書館内に飲み物を提供するカフェなどがある滞在型図書館も出現している。

つまり、従来の図書館は、図書という資料を通して、先人が積み上げた学問、知識、知恵、情報、などを現代の我々が受け継ぐ場所として機能していた。しかし、これからの図書館は、自分の考えを発信し、学部の垣根を越えて議論を行う機能をも併せ持つ場所へと大きく変化しようとしている。そして、それに必要な設備を揃え、有効に活用できるような指導を行う場所へと変貌しようとしている。従来の機能に加えて新たな機能を持つ多機能図書館が次々と出現している。

新設・改築される図書館の、この新たな機能は、これまでも各学部で行ってきたことであり、新たな機能とは言えないとのご意見が聞こえてきそうである。しかし、従来のやり方と異なるのは、学部の垣根を越えるという点にあり、これには、グローバリゼーションが大きく関係している。

**グローバリゼーション**

グローバリゼーションとは何か？『日本大百科全書』によると、「経済、文化、政治、環境問題など人類の活動とその影響が、国家や地域の境界を超え、地球規模で一体化していく現象のこと。地球（globe）からできたことばで、『グローバル化』とも呼ばれ、『地球規模化』または『地球一体化』と訳される」と記載されている。

グローバリゼーションは人類に何をもたらすのであろうか？膨大な量の情報が、インターネットを通して、世界中に伝達されることのメリットがまず第1に挙げられる。世界中の政治、経済、文化、科学、技術などに関する情報が瞬時に入手できることは、生活の質の向上をもたらしてくれる。メール、スカイプ、ラインなど安価な費用で、世界中の人と交流ができることも、利便性のある豊かな生活をもたらしてくれる。マスメディアを通さずに、誰でもが自分の主張を世界中に配信することができ、世界中の人々とのコミュニケーションの方法が容易になったことから、これまで独裁制度下で苦しんで来た弱い立場

の人々にも発言する機会ができ、基本的人権を求めて、民主化運動が世界的な広がりを見せている。人身売買、人種差別、貧困などに苦しんでいる人々の状況が世界中に配信され、そのことに対処しようという動きが世界規模で活発化し始めている。

第２の利点として、経済的効果が挙げられる。海外の様々な商品も瞬時に購買手続きが可能となり、短期間で入手できるようになってきた。日本も含めて世界の多国籍企業が、研究、生産、販売などを世界的規模で行う事により、消費者は、より安くて質の高い商品やサービスが容易に得られるようになってきており、多くの人々の生活をより豊かにしてくれるようになった。

しかし、グローバル化が進んだのは良い点だけではない。2008年に起こったリーマン・ショックは、世界的不況をもたらし、日本の学生の就職にも大きな影響を与えたことは、当時キャリアセンター長であった私自身だけでなく多くの方々が体感されていると思う。米国で発生した同時多発テロは、決して一国だけの問題ではなく、世界各地で多発しており、国際空港での安全チェックは、靴も上着も脱ぐことが要求され、金属だけでなく液体も制限されているほどの深刻な問題となっている。地球温暖化は、世界各地で猛暑、干ばつ、洪水をもたらし、地球の生態系を脅かしかねない規模で進んでおり、日本でもこの夏の猛暑とゲリラ豪雨は、日本が熱帯地域化したのではないかと思えるほどである。これらの問題を根本的に解決するには、国家や地域の境界を超え、地球規模で対処して行くことが求められるようになってきているのが現状である。

**日本の大学に求められるもの**

地球規模で対処して行くために、日本の大学が果たす役割は何か？明治維新以来、日本は海外からの情報、技術、文化、商品などを積極的に取り入れることにより発展し、一時は国民総生産（GDP）が世界第2位になるほどの経済大国となった。日本製品の品質の高さ、技術力は世界でも認められ、日本人のマナーの良さ、日本人の勤勉さも称賛されるようになってきたことは誇らしく思う。しかし、国際学会で良く聞かれるのは、日本人は積極的に他者から取り入れるが、自らの意見を述べたり、自分達のやり方を他者に伝えようとしない、“get”しようとするが、“give”しようとしないとのコメントである。日本人の美徳とされてきた慎み深さ（modesty）は、逆に理解されてしまうことがあるというが真実のところである。

グローバル化された国際社会で我々が果たす役割は、国際社会で発信する手段を持つこと、発信する技術を磨くことにあると考える。発信手段を持つためには、国際言語である英語コミュニケーション力を磨くこと、国際社会のマナーを知ることが第１に求められる。第２に、発信技術を磨くためには、自分の伝えたいことをまとめ、聞き手の視点に立ったプレゼンテーション力を磨くこと、そして、議論に必要なコミュニケーション力を磨くことが重要になる。

近年の新しい図書館に組み込まれている設備とは、まさに、国際社会で発信する手段と技術を磨くという２つの力を習得するための設備であると考える。国家や地域の境界を超え、地球規模で一体化していくこのグローバル化の時代に、日本の大学に求められているのは、学部、専門を超えて意見を述べ、議論して、地球規模の問題を解決する能力を有する国際人を育成する事であり、特に総合大学である近畿大学では、理系、文系の垣根を越えて、各学部の学生、教職員が集合し、発表し、議論を戦わせて行く力を習得する事である。

図書館長としては、これまでの図書館機能である、蔵書管理と同時に、発信や議論の場所としての新たな機能を持つ多機能図書館を作り上げていくことに、希望や夢を感じている。そのためにも、教職員、学生が一体となった積極的協力が望まれ、それが近畿大学

の発展につながり、ひいては、世界において
日本が積極的役割を果たすことにつながると
考える。